

抗議及び要望書

2012年8月6日

株式会社ニコン

取締役社長 木村眞琴 殿

宮崎県宮崎市宮田町10-22-203

株式会社芥川仁 代表 芥川 仁

貴社が運営されている新宿ニコンサロンにおいて、本年6月26日より7月9日まで開催された安世鴻写真展「重重ー中国に残された朝鮮人元日本軍「慰安婦」の女性たち」に関する開催までの経緯と写真展会期中の貴社の対応について抗議すると共に、今後のニコンサロン運営について下記の通り要望致します。

私は、上記に事務所を置き仕事をしているフリーランス写真家です。過去に3回、銀座ニコンサロンにて写真展を開催していただいたことに感謝し、誇りにも感じているところです。しかし、この度の新宿ニコンサロンにおける安世鴻氏に対する貴社の対応は、同じフリーランス写真家として今後の表現活動に非常な危機感を覚えると同時に、私の職業の根幹を支える「表現の自由」に対する抑圧と受け取りました。

私が知り得たこの件に関する知識は、主に新聞紙上とインターネット上の情報です。そのため情報の偏りがあるのではないかと考え、貴本社総務部文書係と系列会社である株式会社ニコンイメージングジャパン プロフェッショナルサポート部へ電話を差し上げ、「私が知っている知識と異なる貴社の立場があるならば教えていただきたい」と申し出ました。しかし、両担当者のお答えは、「諸般の事情という以上には、お答えできない」というものでした。

以上の経緯から、私は、下記の通り抗議すると共に要望を致します。

1) 正規の手続きを経て開催が決定している安世鴻氏の写真展を、その真意は不明ですが、ともあれ貴社の一方的な理由により開催中止を通告した上、東京地裁の仮処分に従い開催する際にも、あくまでも仮の開催であることを表明し続け、写真展案内板の設置をせず、会場内では貴社が依頼した弁護士を常駐させ、入場者の所持品検査を行い、作者である安世鴻氏が会場内を撮影することさえも阻止した行為は許されざるべき行為で、貴社に対し強く抗議します。

2) 安世鴻氏の作品が題材としている「日本軍慰安婦」の問題は、我が国にも対立する意見が存在することは承知していますが、安氏の写真作品がその一方の立場を支持する内容であったとしても、貴社が運営するニコンサロンが社会的な写真展会場の役割を担っていることは明らかで、表現の自由を保障しなければならない社会的役割を放棄した貴社に対し強く抗議します。

3) 正規の手続きを経て開催が決定している本年9月13日から大阪ニコンサロンにおいて開催予定の安世鴻アンコール写真展を開催できるよう貴社の速やかな対応を要望致します。

4) 貴社の企業理念「信頼と創造」に基づいたニコンサロンの設立趣旨が「写真文化の普及・向上を目的とする写真展示場」であることを尊重し、以後、いかなる事情があろうとも世界に冠たるカメラを製造する貴社の誇りを持って、表現の自由を保障する確固たる信念の下、ニコンサロンの運営をされるよう強く要望致します。

最後になりますが、上記抗議の意思表示として、これまで私が42年間愛機として仕事を共にしてきた貴社製品のカメラ及びレンズ等を使用しないことを宣言し、その証しとして、これまで恩恵を受けてきたNPS会員証を返却致します。

以上